

佛心

二〇二二年七月八月号

浄土真宗 本願寺派

トロント仏教会

時計を見るせいで、針が動いてないように思え、時計が壊れているのではないかと疑ったほどです。

挙式の中で司婚者は、兄夫婦に向かつて、「いままで互いに向き合っていた二人が、今後は同じ方向を向いて新たな人生を歩みださなければならぬ。そのスタートを仏様の前で誓いを立てる今この時が、一番幸せな時間かもしれない。言い換えれば、これから二人には乗り越えていかなければならない困難が多く出てくるでしょう」と言っていたのです。

二人にとって一番と良いって言いかもしれない挙式の幸せなときに、幸せを望むだけでなく、人生における苦しみを説いていたので、この人は根っからの僧侶だな、と感じずにはいられませんでした。

そして、その司婚者の方は続けて、「もしかしたら、将来、お二人には幸せよりも苦しみのほうが多くなるかもしれない。今後は、その苦しみを同じ歩幅で乗り越えられるように生きてほしい。しかし、人生には二人だけでは解決できない苦しみも必ずあります。そんなときは、どうか阿弥陀如来の声を聴いて、仏様に相談してほしい。それができるのが、仏教徒である私たちのもうひとつの幸せです。」とおっしゃっていました。



結婚式と臨終勤行

今月で7月に入り、2022年の半分以上が過ぎていきました。そう思うと、いつも時間の流れの速さには驚かされます。

時間の経過というのは、面白いものです。というのも、時間の流れる早さそのものは一定であるはずなのに、そのときの状況や環境によって、とても長く感じたり、はたまた短くも感じたりするからです。

高校で歴史の授業を受けていたときは、その授業が永遠に続くかのように感じたものでした。先生が黒板を向いているときを見計らっては、教室の後ろの壁に掛けられている時計を見ては、いつ授業が終わるか何度も確認をしていました。何度も何度も

いま改めて仏教を通して歴史などを学んでいますと、とても楽しく、あつという間に勉強の時間が過ぎ去っていきます。そう思と、時間を大切に使うことも、無駄にするのも私のこころもち次第であると痛感します。

さて、先月はトロント仏教会で結婚式がありました。仏前結婚式は、いま人気があるようで、ありがたいことに今年だけでも既に6組のカップルから司婚するように依頼がありました。

これからの人生を共に歩んでいく二人を、阿弥陀如来の前で送り出すのは、なんとも微笑ましく尊いことです。そして、そんな幸せな二人を見ますと、この時がいつまでも続けばいいなと思います。

ただ、そんなことを考えていますと、6年前に行われた兄の結婚式のことをいつも思い出します。

仏教における儀礼や儀式というものは、仏様の教えに触れるご縁であると同時に、人生の節目を教えてくれるものでもあります。

それは結婚式だけに限らず、葬儀や命日法要にも同じことが言えます。大切な人のお別れを、儀礼を通して知るとき、その時間というものはこの上なく尊いものになります。

私事ではありますが、先月もある法要を通して、いろいろと考えさせられることがありました。それはあるご家族から、お祖母ちゃんのための臨終勤行をお勤めしてほしいと依頼があったときのことでした。

そのおばあちゃんは安楽死を選択しており、家族からはその最後の日におばあちゃんの好きだった正信偈のお勤めをしてほしいと言われました。

私は過去に何度か、このような安楽死の場面に立ち会わせてもらったことがあります。その彼らの最後の日に共通して言えるのは、みな死を覚悟して、最後の力を振り絞って、家族と過ごせられるその一瞬一瞬を大切にしていることです。

安楽死に関しては様々な議論がありま

す。しかし、現場に立たせてもらう身として、安楽死を決めた彼らの決断が良いのか悪いのかという二元論での議論は意味をなさないと思いますし、その答えを闇雲にだす必要はないと思います。

ただ僧侶として、その彼らの決断を限りなく尊重することが必要ですし、そばに寄り添うことがこの上なく必要なことだと思います。

先月の臨終勤行では、私が彼女の横で「正信偈」を称えていたとき、彼女は静かに目を閉じていました。念仏を称え始めると、口を動かして南無阿弥陀仏と名号を口にして、一緒に合掌をしてくれていました。

読経後に、彼女は私の目をしっかりと見つめて、「先生、私は何も心配していないよ。だって阿弥陀さまは、いつも私のことを見守ってくれているんだもの」とおっしゃっていました。

私はそれを聞いて、彼女は心から阿弥陀仏のお慈悲をこころの抛りどころとし、すべてを仏様に任せているように思

えました。そして、最後には向こうから「お浄土でまたお会いしましょう」と握手をしてくれて、お別れの挨拶ができた

した。時間というものは、とても興味深いもので

す。その臨終勤行の時間は、彼女の長い人生の中で、短い時間の出来事だったかもしれせん。また、彼女の子どもや孫たちにとっても、彼女の死を受け入れ、「さようなら」と言うには、十分な時間であったとは言えなかつたかもしれません。

しかし、その時間は、今後の彼らの長い人生においても忘れられないものとなり、限りなく深く意味のあるものになるでしょう。

時は常に流れています。それはまるで川の流れのようなものです。川の水が元の場所に返ることが無いように、私たちも過去に戻ることはできません。

だからこそ、仏教では「過去は変えられない。けれども、過去の捉え方は変えられる」と教えてくれます。

そして、阿弥陀如来の大慈悲は、悲しみを悲しみと受け止め、悲しみを悲しみのまま

で終わらせないことを私たちに教えてくれます。仏事や法要は仏さまと出会うだけでなく、人生の節目を教えてくれるものです。ですから、仏教には四十九日や百ヶ日、一周忌、三

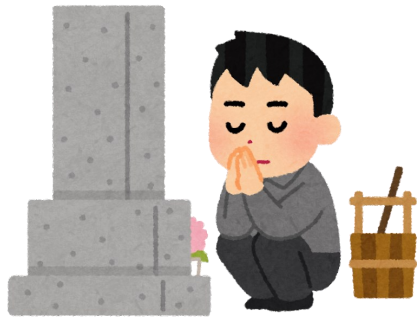
回忌などの命日法要があります。

そして、これらの礼拝は、故人とのつながりを感じるご縁としても、とても大切なものです。

今月7月は、盂蘭盆会（お盆法要）が執り行われます。どなたも、阿弥陀如来のご縁を慶び、一緒にお念仏を申させていただきます。ただればと合掌させていただきます。

トロント仏教会 駐在開教使

大内祐真



お墓参りのご案内

お盆とは先にお浄土へ還って往かれた方々を偲び
そのお導きによって私が今、お念仏する身へと
お育ていただいた事に感謝する大切なご縁です。
是非ともご家族おそろいでお参りになって下さい。



7月9日（土曜日） お墓参り トロント各墓地

お墓参りのスケジュール

<u>大内祐真開教使</u>		<u>スーザン恵比寿崎</u>		<u>ジェフ・ウィルソン先生</u>	
Mount Pleasant	9:00 AM	Sanctuary	9:00AM	Glen Oaks	9:30 AM
St. James	10:30 AM	Riverside	9:30 AM	Spring Creek	10:00 AM
Toronto Necropolis	11:15 AM	St. Philips	10:15 AM	Meadowvale	11:15 PM
Park Lawn	1:30 PM				
Prospect	2:30 PM	<u>ポーリンクヌーデ</u>			
		Pine Ridge	1:00PM	<u>デニス間所</u>	
<u>ジョアン湯浅先生</u>		Salem U.C	1:30 PM	Highland Memorial	11:30 AM
York Memorial	9:30 AM			Elgin Mills	12:30 AM
Pine Hills	10:45 AM	<u>ジョン西川</u>			
Resthaven	11:45 AM	Glendale	9:30 AM		